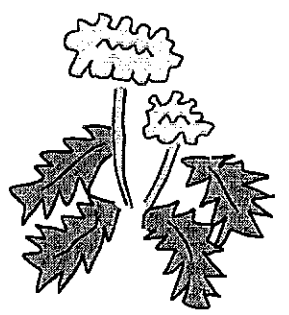


No. 195  
 H15年9月1日  
 一 発行 一  
 〒869-1217  
 熊本県菊池郡  
 大津町森 54-2  
 社会福祉法人  
 三気の会  
 三気の里  
 ☎096-293-8100



多大なるご迷惑をおかけした。この場を借りてお詫びしたい。

平成十四年度事業報告

施設長 松田 健

◎入所施設職員の仕事は利用者が朝起きてから、夜寝るまでである

といったことを言う人がいたなら、時代錯誤も甚だしいと馬鹿にされることであろう。十分前に出勤を命ずると時間外の請求をされるであらうか。不当労働行為として訴えられるだろうか。休日に地域主催のスポーツ大会に参加することは施設職員として面倒なことであらうか。

何もしない、意見があっても言わない、時間内だけの関係であると割り切る、利用者の調子が悪くとも同じである。ましてや勤務中もいい加減な仕事しかない。ノルマはなく、年を重ねるごとに昇給していくから無駄な努力はしない。施設のものはいくらでも購入できると考えている。自分のものではないので大切にしない。チームの和を乱し、足をひっぱることを喜びとしている。自分は頑固

だから、文句をすぐ言うからと聞き直っている。創設者の理念や管理者の経営方針に従わない。こうした職員がいると施設は腐

っていく。社会の厳しさ、企業、

会社の大変さがわからず、施設の甘い世界にどっぷりつかると自己修正は不可能となる。「悪貨は良貨を駆逐する」ことになるのが一般的である。三気の里では逆であり、やる気のあるスタッフが趨勢をまとめており、全国的にも誇れる部分が多いと自画自賛している。それは、自閉症という極めて重い障害を抱えている利用者が多くいる施設のため、いい加減な態度ではまならないからである。やる気がない人はやめていく以外ない。定着率がどうのと言われるが、改革ができないから破綻していくのである。

「いい職員と巡り合うことが（施設にとって）財産である。」と創設者の故田中稔先生がよく言っておられた。その意味することが

よく分かるようになった。スタッフも揃い、いよいよこれから本格的にスタートできると感じた一年であった。

◎平成十五年二月に利用者一名が自宅で亡くなった。元気な方であっただけに驚きを隠せない。多動、他傷、脱コントロール、水飲み、発作、詰め込み食べ。自分の動きが制御できずに苦しかっただろうと思う。自閉症の大変さ、難しさ

を改めて思い知らされた。施設長として無力さを痛感し、責任を感じている。改めて自閉症児・者への加算や職員配置など、自閉症という特殊な障害への理解を高める動きを自らも行っていく必要性を深く感じた。

◎支援費制度への準備にさいして、予想されたことであつたが最後まで不明な点があり、また、二転三転することが多く、混乱した。現場も巻き込んだため、利用者にも

多大なるご迷惑をおかけした。この場を借りてお詫びしたい。

◎家族・保護者で病気になる方、入院される方が目立った一年だった。家族・保護者の高齢化問題について真剣に考えていく必要がある。自閉症という障害をもつ子供をかかえ、育て方が悪いからと言われた世代であり、差別や偏見を顕著に受けてこられた。気丈に生きることを余儀なくされ頑張つてこられたが苦勞や疲れは第三者からはうかがい知ることができないものである。後見人制度、年金管理委員会創設の問題など山積していることに対しても一つずつ着手していく必要がある。

◎平成十四年度は、五十年ぶりの福祉世界の改革である支援費制度移行に向けての準備の年であつた。大きな整備事業もなく、利用者の生活・療育も従来通りに行つてきた。一方地域交流事業は進展しており、開園記念祭では150を超える企業協賛や650名を超える来訪者を迎え、盛会のうちに終了した。地域での廃品回収行事への継続的な参加などにより、頼られ

る存在となった。認知していただこうという初期の目標は大きく達成できた。平成十四年十二月に熊本県自閉症・発達障害支援センターが三気の里内に開所した。全国十二カ所、九州では一カ所というところもあり、注目を集めている。そのありかたについては今後議論を要するが、自閉症関係者の長年の夢が三気の会において実現したことを誇りに思う。

## 夏祭り

夏祭り

菊池 優香

去る7月25日(金)に夏祭りを行いました。今年のテーマは「花」。利用者と一緒に夏祭りを作っていたかと思ひ、利用者の会議も、当日までの準備を進めて行きました。その中で、皆から出されたアイデアから、今年の盆踊りは、S M A Pの「世界に一つだけの花」にオリジナルで振り付けをし、数日前から練習を行い、本番に備えました。また、ステージに花を添えるため、女性は、たつたの希望であった浴衣を。男性数名も甚平を着てフアッションショーを行いました。又、壁一面を彩った壁面装飾は利用者一人一人の字型を組み合わせて、たくさんのお花を描き超大作。祭りの一つ一つを、皆と一緒に作り上げました。

そんな祭りを陰で支えてくださった方々が今年も大勢います。60名を越すボランティアさん、そして森の子ども会の皆さん。その他多数御来園いただき、大変楽

しく盛大な夏祭りを行う事が出来ました。本当に有難うございました。又来年も宜しく願ひします。

夏祭り セレモニ

今年の夏祭りは多くの方々に参加してほしいという思いで、利用者だけでなく、森の子ども会の皆さんにも参加して頂き、コーラ早飲みやのど自慢大会、フアッションショーを企画しました。みんなの前で、堂々と1曲を歌ってくれた人、自分の浴衣、甚平姿を披露してくれた人。その会場は大盛り上がりでした。そして、中庭に広がった大きな輪で踊った「世界に一つだけの花」はとても感動的でした。来年もまた思い出に残る夏祭りをみんなで作りたいたいと思ひます。

栗野

夏祭り 壁面

去る7月25日、三気の里において夏祭りが行われました。今回のテーマは「花」という事で、「今年も皆と一緒に作り上げたい！」と思ひ、一人一つの花を描く事にしました。一人として嫌がる人は無く、楽しそうに参加してくれまし

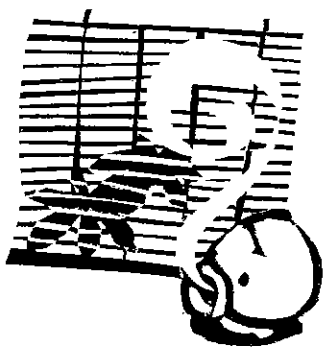
た。試行錯誤しながら、大きな布のキャンパスに一人一人絵の具を塗って手型を取り、それぞれの花を描いていきました。一人一つの花：全部で89個。同じ物は一つも無く、それぞれに味のある作品が出来ました。祭り当日、午後から雨でしたが、みんなの願いが届いたのか祭りが始まると次第に晴れ、壁面を中庭に大きく広げ、素敵な花を咲かせることが出来ました。みんなで作った一枚の絵、協力する素晴らしさを実感した夏祭りとなりました。

宮原

利用者インタビュー

今年の夏祭りは楽しかったです。みんなで一緒に食べた焼そばとコーヒー、かき氷おいしかったです。

希久男



「行動について考える ①自傷」

麻生 由紀

先日、とある研修会に参加した時の事です。ある事例発表の中で、とても気になることがあり、それ以来その事が頭から離れずにいます。せっかくなので、是非、皆さんと共に考える事ができたらと思います。

「他傷行為は、ヤラレタ傷口が化膿し病気になる可能性があるの、させない・されないようにする方がよい。自傷行為は、害がないから特に対処はしない。」——他傷行為は傷口から病気になる恐れがあるから？止めたほうが良いけれど、自傷行為は本人の問題だから特別に対処はしない——という考え方のようです。

この業界では、様々な方法論や障害の捉え方がありますが、唯一「脳の器質的な障害」という共通理解だけで、全く正反対の対応法や考え方が謳われていることも珍しくありません。そのような中で、前述したような発言も、また珍し

い事ではありません。

私が彼らと携わるようになり9年目を迎えました。まだまだ偉そうな事を言える立場ではありませんが、「自傷行為は、絶対にさせてはならない」という事は強く言いたい事の一つです。私の担当のMさんは、三気入所4年目に左目の視力を失いました。長年の自傷行為で網膜剥離状態になり、白内障を起こしていたのです。あの時のショックと、やり場のない思い、自分のそれまでの仕事、障害の考え方・捉え方、全てが脳裏を駆け巡り、呆然となった事は、今でも忘れる事ができません。むしろ、その時の思いがあるからこそ、今、「自傷はさせてはいけない」という信念を持ち、彼らに関わっているのだと思います。その当時、私自身「自傷行為は感情表現」という単一の捉え方の基、イライラするから自傷。嫌だから自傷。——だったら、その原因と思われるものを排除する事が援助となる——と思

い、「彼女が混乱しないような環境作り」「彼女が自傷しなくてすむような課題や日課の提供」を中心とした援助を続けました。もちろん、

自傷行為が表出したらその都度止めてはいました。しかし、ただその叩く行為だけを止めていただけで、そこに私と彼女が何かを共有している感覚は無く、彼女の自傷は続きました。そして、私たちに何かを訴えるかのように、今度は視力のある右目ばかりを叩くようになりました。夜間、消灯を迎えると同時に、居室から激しい自傷の音が聞こえます。「依存心が強くなるからそっとしておいた方がよい」と言われ、止めた方がよいのか、止めない方がよいのか混乱したこともありました。

行動障害を起こしてしまった人は、あるラインを超えると、自分で自分の行動のコントロールができなくなり、「したくないのに、止めたいのに、それでも体が動いてしまう。」本人の努力だけではどうにもできない状態に陥ってしま

うのです。そういう状態に一番困っているのは本人で、決して「好きでやっている」のではなく、勿論「自閉症の特徴」という言葉で片付けてはいけません。そのような彼らに対し、正しい行動に変える手続きをする事が両者の最重要

課題であり、行動を変えるためには表出している不適切な行動をゼロにしなければなりません。そして、その際にもっとも必要な援助は、物でも環境でもなく、誠心誠意、最後まで彼らと向き合える「ヒト」ではないかと考えます。

さて、Mさんの激しい自傷行為に対し「自傷は絶対にゼロにしない。常同もできればゼロにしない。そして、仕事をきちんと提供しなさい。」というアドバイスを受け、私は正直、「そんな無茶な。できるわけがない。」と思いつつ、その言葉を信じ取り組みを行なってみました。それは、頭で思っている以上に過酷な日々でした。しかし、真剣に「止めて欲しい」と

思い止め続ける事で、その思いは彼女に伝わり、彼女の一举手一投足を食い入るように見続ける事で、行動の分析(常同行動↓声だし↓自傷行為)ができ、自傷をゼロにする為の常同をゼロにする事の意味が理解できるようになりました。また、これまでは「変化↓パニック」という事から、内容に変化のある作業はさせず固定した教材を行っていました。しかし、「仕事を

行っていました。しかし、「仕事を

「きちんと提供しなさい」というアドバイスに沿って皆と同じ作業を提供してみたところ、「私も一人前だよ!」と言わんばかりに彼女の自傷は激減しました。両者の課題共有から徐々に本人の身体意識レベルは向上し、目的的行動がとれるようになってきたのです。もちろん、その背景には、同じ想いで取り組んでくれたスタッフの大きな力添えがあったことは言うまでもありません。一貫した指導・隙間の無い指導は、また一つ重要で必要不可欠な事だと言えます。

「今、彼女はあらゆることに積極的且つ前向きに取り組む日々を送っています。これまでも見えなかったものが沢山見えるようになり、本当の「楽しい人生」へ向けての歩みが始まりました。成人式で着る事ができなかつたお母さんの振袖を着たり、髪の毛を染めてみたり、スナックにも行きました。もちろん、仕事も皆と同じようにやっています。興味関心や対人関係も豊かな

広がりを見せるようになってきました。自傷行為は完全にゼロになってはいませんが、少なくとも、これ以上本人の生命を失うような状態ではありません。そんな現在の課題は「自傷に代わる表現手段を身につけること」です。

研修後の初出勤。そんな彼女の姿を横で眺めながら「自傷は害がないから」「自傷は表現手段だから」「本人の個性だから」「自閉症の特徴だから」という言葉で片付けてしまつて良いのか?

自傷が必要な人は一人もいないはず。これからも自傷で困っている一人一人の利用者と向き合い、丁寧に付き合っていきたいと思っています。



## 1 班 (二ゆーす)

### 1 班・作業開始!

今年も8月2日~17日まで長い夏期帰宅訓練期間(夏休み)がありました。2週間以上の長期の休みで、作業も掃除もなし。しかもほとんどの利用者が帰宅していました。その長い夏休みも明け、当たり前ですが18日より日課全体が休みモードから仕事モードに切り替わります。そんな中、休みモードから抜け出せず作業や掃除に集中できるようになるまで時間がかかる人が毎年、数多くいるのですが「今年の1班は素晴らしいっ!」と思わず叫んでしまうくらい皆さん初日から作業に集中できています。

普段からスタッフが集団行動、作業、掃除など日常のあらゆる場面で妥協なく利用者として接する事ができている成果と、夏休み中でも作業や掃除のかわりにドライブ、遊び隊、レクなどの活動を通して普段と変わらず利用者として接していた成果が表れているのではないかと感じています。

それにより利用者も混乱する事がなく、安心して作業に取り組めるといった、良い信頼関係が1班に芽生えつつあります。これからも利用者の皆さんとしっかりしたやり取りを行ない、さらにより良い信頼関係を目指して行きたいと思っています。

高橋

### 通所・通所部から一般就労へ

前回、職場実習に行くことになった山内君を紹介しました。今回は、実習生から正式雇用になった山内君の工場での仕事ぶりを紹介したいと思います。6月から週に1回半日だけスタッフがついて始めた実習でしたが、山内君の真面目さと頑張りで着実に働く時間を増やしていきました。現在では毎朝バイクで出勤し、午前8時10分から午後5時30分まで仕事をするようになり、8月からは、正式に雇用される事になりました。

仕事内容は、バイク・車の部品の加工。作業は、流れ作業で他の作業工員の方達と一緒に、任された工程をやる気をもってこなしています。しかし、作業の面では、スムーズに馴染む事が出来た山内君でしたが、帰る時の挨拶を忘れてしまったり、作業の合間にボンヤリ立っていたりと職場の人達との人間関係に関しては、どうしても気付かない事がありました。今まで通所部では出来ていた、挨拶や色々な場面での報告、状況を判断して行動する事などが、職場の中では中々上手くできなかったことがあったようです。今では会社と山内君と三気の里との関係で、少しずつ職場の仲間の一員として溶けこみ、笑顔も増えてきました。

今回、山内君が実際に社会の中で働くようになり、改めて人とのやり取り(コミュニケーション)の大切さと難しさを感じました。通所部の仲間達も日常生活の中で、周りの人と上手に関わっていけるように、1つ1つ課題をクリアしながら一緒に頑張っていきたいと思っています。

岩田

### 3 班・気を取り直して

雨ばかりだった…という印象のある 7・8 月ですが皆さんはどのように過ごされましたか？体調の維持・管理が難しかったですね。この 2 ヶ月間の全国的な異常気象で農作物への影響がマスコミでも報道されていますが、10 年前のような米の不作、野菜類の高騰に繋がらないと良いのですが。私達 3 班の農・園芸班でもこの異常気象・日照不足の影響をもろに受けて野菜類が大きくなりきれず、トウモロコシやなすび、2 回目の大根は収穫することが出来ないまま土に返すことになってしまいました。ジャガイモも収穫は出来ましたが、表面がザラザラしたようになってしまい、ほとんどが売り物にならない状態でした。(これに関しては気象条件だけの問題では無さそうですが…)ししとうは収穫できましたが、収穫量は今年の半分程度でした。唯一の救いは、初めて挑戦した枝豆の生育が順調で、販売したり大豆で収穫するために畑に残したりしているような状態です。これからは秋物の野菜の植付けが始まります。気を取り直して野菜・花の植付けを行い、前半分を取り返せるよう利用者と一緒に汗を流したいと思います。

木下

### 4 班・残暑…に負けないぞ！！

長かった夏季帰宅訓練を終えて、4 班のメンバーが作業棟に帰ってきました。夏季帰宅中は、在園生の憩いの場となっていた作業棟ですが、初日からピリリといいムードです。紙すきチームは、夏季帰宅開始直前に注文を受けた名刺作りに大忙し…。忠夫さんがせつせと牛乳パックを切り、ゆかりさんがそれを束ね、民子さんがラミネートをはいで細かく切り、昭子さんがミキサーがけをして、正利さんが紙をすく。出来上がった紙に晃子さんが印刷をして袋詰。一人も欠けることなく作業を開始できたので、能率よく作業が進み、きれいな名刺が出来上がっています。パラシュートチームは初日こそ目標枚数を下げたものの、皆がすぐに勘を取り戻し、美智子さんは 20 枚、行夫さんは 20 枚から 30 枚、幸恵さんは 70 枚から 100 枚、幸男さんはコンスタントに 130 枚、そして 4 班の作業に戻ってきた美緒さんは「以前作業所でやっていたよ」と得意気に、完璧な仕上がりで 20 枚から 30 枚も作り、これではあつという間に納品に行かなくてはならないようです。残暑厳しく、作業棟の中にも暑いくらいですが、体調を整えて、毎日みんながそろってがんばっていきましょう。 平川

### 2 班・何でも引き受けます

2 班に新しい仕事が入りました。その内容は、水晶等の石をワイヤーに通す仕事です。皆が通した物は、お店でプレスレット等の商品になり売られるのです。新しい仕事を請けて、日も間もないのにすでに水晶通しの職人と呼ばれる人がいるのです。1 番手は有馬さん。1 時間半程で 4 メートルほど通してしまうのです。余りに機械的に動いてくれるので、途中「きゅうけい」という掛け声がかかると、休憩して身体を休めるルールになりました。休憩中は首周り、肩周りのストレッチをして、身体が強ばらないようにもしています。その他ネットの進み具合を見ながら、鶴崎さん、岩永さん等 10 名近くで水晶通しをする事もあります。うれしいことに、長年取り組み続けてきたネット作業のお給料より、水晶通しのほうのお給料が多くなりそうです。給料袋に紙幣が入るのも間近かだと、心浮かれる給料日前です。

石丸

### さんサン工房・納品

残暑お見舞い申し上げます。今夏は、雨が多く湿気が多い日が続いて、快晴な日が少なかったようですが、夏休み中は体調など崩されずお過ごしでしょうか？

さんサン工房のメンバーは、夏休みに入る前に N 社より 1250 本の製品を収めてくださいとの依頼があり、しかも期間が 2 日間しかなかったのですが、やるしかないと気持ちを引き締め、朝礼時にメンバーにも伝えたところ、皆、真剣な表情で聞いてくれて、休憩時間もそこそこに、よく頑張ってくれました。おかげで製品も 1300 本できて、無事に納品に間に合う事ができました。皆もほっとしていたように見えました。夏休みはゆっくり過ごして、また新たに納品へ向けて頑張らしましょう。

大橋

9月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日	備考
1	2	3 金森さんの 誕生日(35)	4	5	6	7	
8	9 2班レク	10 藤井さんの 誕生日(21)	11	12	13 家族会	14 真一郎さん の誕生日 (30)	
15 敬老の日	16	17 健二さんの 誕生日(27) 誕生会	18 たんぼぼ編集	19	20	21 松村さんの 誕生日(30)	
22	23 秋分の日	24	25	26 小島さんの 誕生日(28)	27 運動会	28	
29	30 3班レク	金森さん、藤井さん、真一郎さん、健二さん、松村さん、 小島さん誕生日おめでとう！◎ 12日竹内 Dr 来診 23日田中 Dr 来診 13日家族会 18日誕生会 27日運動会					

後援会ありがとうございます

高橋 美行 前田 克英  
吉永 藤子 中野 浩二

新田 貴之・真理

田中 照見 高橋 尚樹

増田 英宏 甲斐 安夫

森川 マサミ 松本 了

魚谷 康洋 矢鋪 渉

相良 久仁子 今西 克之

小島 紀男 山内 久巳子

中原 喜徳 中田 康則

那須 二郎 宮崎 恭一

門岡 蓉子 吉岡 誠治

松田 寛史 松田 幸美

別府 卓 田中 稲男

榎文洋堂 吉永 設備

熊本 アイホー ※敬称略

実習ボランティア

8月はたくさんさんのボランティア  
有難うございました。夏祭り時に

尚綱短大の片山由利さん、米野夏

子さん、湖東カレッジの石崎歩さ

ん、大津高校から45名、翔陽高校

から14名、大津北中から2名、熊

本学園大から1名がお忙しい中、

夏祭りに参加していただきました。

作業ボランティアに学園大から2  
名がこられました。

9月20日(土)に運動会があり  
ます。是非、ボランティアに来て  
頂きたいと思えます。御連絡待っ  
てます。 両角

(ボランティアありがとうございます)

\*ピアノ演奏 井川マリ子

\*ブラッシング指導 前淵 隆子

\*生け花 西村 栄子

敬称略

《出張・研修報告》

7月24日 ボランティア研修 高橋

7月29日 カウンセリング研修 平山

7月31日 同和研修 松田・高橋

8月4日〜10日 心理リハビリテーション 麻生

8月13日〜15日 やすらぎ荘キャンプ 麻生

8月16日〜22日 熊本心理リハビリテーション研修 木下・山部

8月18日 救急救命 平川

